

アカデミック・サクセスに向けた日本語学習コミュニティの構築： 学習習慣に関する学習者の自己認識

知念聖美(カリフォルニア州立大学ロングビーチ校)
齋藤-アボット佳子(カリフォルニア州立大学モントレー校)
札谷新吾(デュページ大学)

要旨

ポストパンデミックの時代への移行に伴い、米国における日本語教育は変化しつつある。教育現場でも、パンデミックの前後を比較して、学習動機や集中力の低下などの日本語学習者に関する様々な変化が指摘されている。本稿ではパンデミック後に大学で初級レベルの日本語学習者が自身の学習習慣についてどのように認識しているかについてアンケート調査した。統計分析と質的分析の結果を報告し、今後の日本語指導のあり方について考える。この研究成果は、ポストパンデミックの学習者のニーズを的確に把握し、適切な授業計画を策定する上で有利であるうえ、アカデミック・サクセスに向けた日本語学習コミュニティ構築にも寄与するものと考える。

キーワード：アカデミック・サクセス、ポストパンデミック、学習者の自己認識、学習習慣

1 はじめに

2020年、地球規模での新型コロナウイルスの感染拡大により教育状況が一変した。同年春にはオンライン授業へ移行し、コロナの終息に伴い対面授業が再開されたが、その数年間、K-16の教育現場では、教師と学習者の双方がオンラインという新たな教育形態において試行錯誤しながらクラス活動を展開していた。オンライン授業においては、それまで教室内で行われていた指導やクラス活動を大幅に変更せざるを得ず、学習者の学習成果や学習習慣も変化し、その変化への対応が議論されている。

学習者に対して効果的な支援を行うためには、まず学習者のニーズを的確に把握しなければならない。本稿では、パンデミック後の初級日本語学習者を対象とした日本語学習習慣に対する認識を明らかにするためのアンケート調査の結果を報告する。これからの学習者のニーズを正確に把握し、適切な授業計画を立案することは極めて重要であり、本研究の成果は、日本語学習コミュニティのアカデミック・サクセスの構築に資するものと考えられる。

2 先行研究

全米の日本語教師を対象に、パンデミックがどのように日本語教育現場に影響しているかについて、その認識を調べた調査 (Saito-Abbott, Mori, & Takehara 2022; Saito-Abbott, Jordan, Mori, & Takehara 2022) がある。その調査結果では、パンデミックの影響は著しく、学習者の習熟度が低下したということが示されており、それは K-12 でも大学でも、学習者の四技能の全てが低下しているという報告があった。その中でも特に話す力と書く力の低下が著しく、K-12 は 65%、大学では 40%から 50% 低下したと感じているという報告があった。

また、高校で Advanced Placement (AP) クラスを教えている教師および大学で日本語を教えている教員 83 名を対象に行った、教育におけるパンデミックの影響に焦点を当てたアンケートの調査結果によると、パンデミックの影響によって習熟度格差があると感じたのが高校で 95%、大学で 77% であった (Chinen, Saito-Abbott, & Satsutani 2023)。さらにその調査では、その習熟度格差に対処するために、学習者への期待度を大きく下げ、高校では 95%、大学では 79% の教師が教え方を変えたという結果となった。

また、スウェーデンの学生を対象に、コロナ禍における学習環境が学習者にどのような影響を与えたかをインタビューした調査 (Munir 2022) がある。その結果によると、オンライン教育は時間管理の向上やクラスへの高い参加率といった利点がある一方で、学生と教員間のコミュニケーションの断絶を招き、またクラスメートとの社会的交流が減少することで、鬱やストレスの増加が見られたという。そこでポストパンデミック期の教育に向けた提言として、ブレンデッド学習やハイブリッド形式のクラスの導入など、コミュニケーションの障壁を最小限に抑える方策を挙げている。

パンデミック中に実施されたアカデミック・サクセスに関する調査 (Stewart, Miertschin, & Goodson 2020) では、アカデミック・サクセスに影響を及ぼす主要な要因の一つとして時間管理スキルが挙げられている。この調査は、パンデミック前の学習者の時間管理スキルと日常のライフスタイルとの関連性を調べたものである。その結果、時間管理スキルは、仕事、大学の組織活動への参加、そして友人や家族と過ごす時間に対する不安と関連していることが明らかになった。そして、この調査結果が、ポストパンデミック期におけるステューデント・サクセスやリテンションに影響を与える可能性があると結論付けている。

ポストパンデミックにおける高等教育機関において、学生のエンゲージメントの向上を主張する研究がある。Hews, McNamara, & Nay (2022) は、ポストパンデミック時代の高等教育機関において、グローバリゼーション、技術革新、そしてコミュニティの価値観に変化が起き、その変化に対応するためにそれまでの教育を再評価することが求められていると指摘し、学生のエンゲージメントを最大化する必要があると述べている。そして、エンゲージメントを最大化するためには、学生の複雑なニーズを深く理解し、それにどのように対応すべきかを明確にすることが不可欠だと述べている。またこの調査 (Hews et al., 2022) における最も重要なことは、学生の感情面や精神面で充実した私生活と、大学生活は密接な関係にあり、学生たちは学業を優先しなければいけないと感じつつも、自分の生活の方を学業よりも優先していることだと報告している。

3 調査目的

本稿は、日本語学習者に焦点を当て、パンデミックでの学習経験をした米国の大学生、特に初級学習者に焦点を向け、日本語学習習慣についてどのように認識しているかの調査結果を報告する。本研究では、次の四つの研究質問を設定した。

研究質問 1：日本語学習の時間管理について

日本語学習の時間管理について、初級日本語を学んでいる大学生はどのように認識しているのか。

研究質問 2：日本語学習法の効率性について

日本語学習法の効率性について、初級日本語を学んでいる大学生はどのように認識しているのか。

研究質問 3：学習に対する姿勢について

学習に対する姿勢について、初級日本語を学んでいる大学生はどのように認識しているのか。

研究質問 4：大学の形態により「日本語学習の時間管理」「日本語学習法の効率性」「学習に対する姿勢」に違いはあるか。

ここでいう「大学の形態」とは、博士号、修士号、および学士号を提供する研究重視のリサーチ大学と、修士号および学士号を提供し、教育に重点を置くティーチング大学の二つの形態を指す。

4 調査方法

4.1 参加者

本調査には、西海岸と中西部に位置する公立四年制大学、私立大学、およびコミュニティカレッジに在籍し、初級レベル日本語(1年目)のクラスを履修している259名の大学生が参加した。参加者の内訳は、公立四年制大学から208名、私立大学から11名、コミュニティカレッジから40名であった。公立大学のうち、リサーチ大学に在籍する学生が146名、ティーチング大学に在籍する学生が62名であった。なお、すべての参加者は任意で参加した。

4.2 データ収集

本調査は2024年の春に日本語初級レベルを履修している学習者が任意でGoogle Formsで作成したアンケートに回答した。このアンケートは無記名で、二つのセクションから構成されていた。第一セクションでは参加者のプロフィールに関する質問で、選

択肢の中から一つを選んで回答する形式を使った。第二セクションでは、日本語の学習習慣について学習者の自己認識に関する六つの質問をした。このセクションの質問には、日本語学習の時間管理、日本語学習法の効率性、および日本語学習に対する姿勢に関する質問があり、4ポイントのリッカースケールで答えるものだった(4が最も肯定的な回答、1が最も否定的な回答)。各質問には自由回答欄があり、参加者は自由に書き込むことができた。

参加者のプロフィールに関する質問事項とそれぞれの選択肢、ならびに三つの研究質問に関する質問内容は以下の通りである。(表1)

表1：アンケート質問事項

参加者のプロフィールに関する質問	
1	What type of college do you attend? Choices: Community College; 4-Year University (Public); 4-Year University (Private)
2	How many hours do you study Japanese per week outside of class time? Choices: Less than 3 hours; 4 to 5 hours; 6 to 7 hours; 8 hours or more
3	How many hours do you work (part-time/full-time) per week? Choices: Less than 10 hours; 10 to 20 hours; 21 to 30 hours; 31 to 40 hours; I work as a full time; I do not work
研究質問1：日本語学習の時間管理に関する質問	
1	When studying, how effectively do you manage time spent with Japanese?
2	How well are you managing to fit Japanese study into your personal schedule?
3	How well are you balancing your time for working and studying?
研究質問2：日本語学習法の効率性に関する質問	
1	How well are you effectively studying Japanese?
2	How well are you able to focus on Japanese study?
研究質問3：日本語学習に対する姿勢に関する質問	
1	How responsible of a learner do you think you are?

4.3 分析方法

本研究では、初級日本語を履修している大学生259名からの回答を得た。Google Formsのスプレッドシートに記録されたデータを Statistical Package for the Social Sciences (SPSS)に入力し、記述統計、One-way ANOVA、ならびにピアソンの相関係数を用いて分析した。参加者が入力した自由回答のコメントは、回答のキーワードを中心とした内容分析を行った。

5 結果

ここでは最初に参加者のプロフィールに関する報告を行い、次に学習習慣に関する学習者の自己認識に関する記述統計を報告する。その報告の中に、大学の形態別の分析(研究質問4)の結果も同時に述べる。研究質問3では、自由回答もあったので、その分析結果も報告する。六つの質問項目(日本語学習の時間管理、個人のスケジュールと日本語学習のバランス、仕事と学習のバランス、日本語学習の効率性、日本語学習の効率性：集中力、学習に対する姿勢)について、大学形態別の相違について調べたOne-way ANOVAと、六つの質問項目への回答の関連性を調べたピアソンの相関分析の結果を述べる。

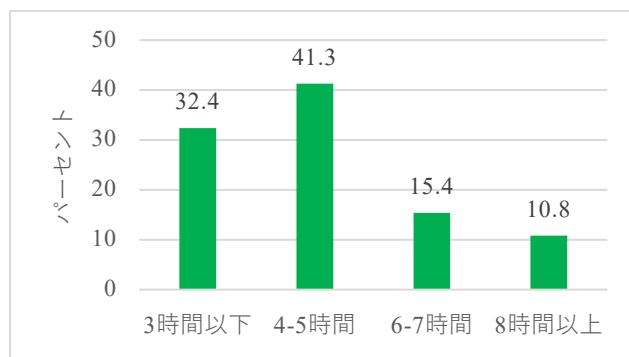
5.1 参加者のプロフィール

この節では、参加者の日本語学習時間および就労時間に関する情報を記述統計によって分析した結果を報告する。

5.1.1 日本語の学習時間

一週間の日本語学習時間で、最も多かったのは4時間から5時間で41.3%、次に多かったのは3時間以下で32.4%、その後に6時間から7時間が15.4%、そして8時間以上が10.8%であった。(表2)

表2: 一週間の日本語の学習時間



一週間の日本語学習時間を大学形態別に見ると、リサーチ大学、私立大学、コミュニティカレッジでは、4時間から5時間の学習時間が最も多く、リサーチ大学は44.5%、私立大学は36.4%、コミュニティカレッジは40%であった。一方、ティーチング大学では3時間以下の学習時間が最も多く、38.7%であった。(表3)

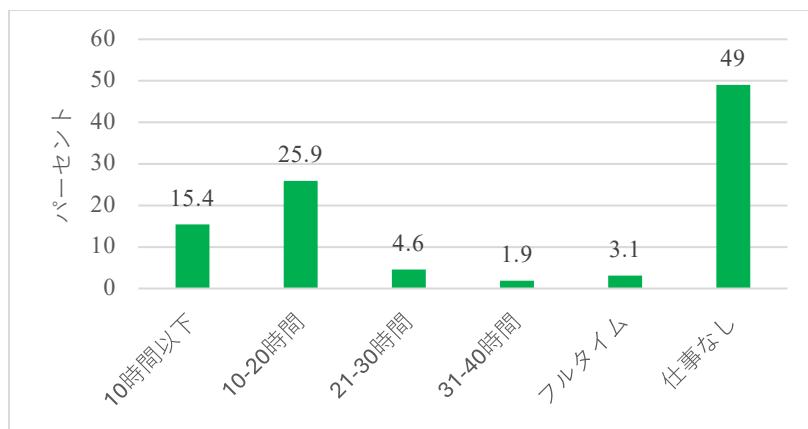
表3：一週間の学習時間(大学形態別) 単位：%

	3時間以下	4-5時間	6-7時間	8時間以上
公立リサーチ大学	29.5	44.5	14.4	11.6
公立ティーチング大学	38.7	35.5	19.4	6.5
私立大学	18.2	36.4	27.3	18.2
コミュニティカレッジ	37.5	40	10	12.5

5.1.2 就労時間

一週間の就労時間に関する調査結果によると、仕事をしていない学生は49%であった。つまり、仕事をしている学生は51%であり、就労している学生と就労していない学生の割合はほぼ均等であった。就労時間において最も多かったのは10時間から20時間で25.9%、次いで10時間以下が15.4%であった。また、フルタイムで働いている参加者は3.1%であった。(表4)

表4：一週間の就労時間



この結果を大学形態別に分析した。それぞれの形態における(a)は、働いている学生と働いていない学生全体を対象とした割合であり、(b)は働いている学生のみを対象とした割合を示している。(表5)

まず全体的な傾向として、コミュニティカレッジ以外の三つの形態の大学においては、約51%から55%が働いているのに対し、コミュニティカレッジの学生で働いていない割合は32.5%にとどまっている。つまり、コミュニティカレッジの学生の約7割が就労していることになる。

次に、働いている学生のみの割合(b)に着目し説明を行う。リサーチ大学とティーチング大学では、一週間に10時間から20時間働いている学生がそれぞれ約56%および

59%と、過半数を占めている。両大学形態において、次に多かったのは10時間以下である。私立大学では、10時間から20時間、および10時間以下の割合が共に40%と、同じ数値を示した。これら三つの大学形態において、フルタイムで働いている学生の割合は0%から6.9%にとどまる一方で、コミュニティカレッジにおいては約15%となっている。いずれの大学形態においても、週に10時間から20時間働いている学生の割合が高い傾向が見られる。

表5：一週間の就労時間（大学形態別）単位：%

		10時間 以下	10-20 時間	21-30 時間	31-40 時間	フル タイム	仕事 なし
公立リサーチ大学	a	15.8	27.4	3.4	0.7	1.4	51.4
	b	32.4	56.3	7	1.4	2.8	N/A
公立ティーチング大学	a	9.7	27.4	4.8	1.6	3.2	53.2
	b	20.7	58.6	10.3	3.4	6.9	N/A
私立大学	a	18.2	18.2	9.1	0	0	54.5
	b	40	40	20	0	0	N/A
コミュニティカレッジ	a	22.5	20	7.5	7.5	10	32.5
	b	33.3	29.6	11.1	11.1	14.8	N/A

a: 働いている学生と働いていない学生全体を対象とした割合 b: 働いている学生のみを対象とした割合

5.2 日本語の学習習慣に関する学習者の自己認識

本研究では、日本語の学習習慣に関する学習者の自己認識について三つの研究質問を設定した。以下にその調査結果を報告する。まず、研究質問1の日本語学習の時間管理に関する結果、次に研究質問2の日本語学習法の効率性、最後に研究質問3の学習に対する姿勢についての順で結果を述べる。

5.2.1 日本語学習の時間管理

まず日本語学習の時間管理に関する結果を報告する。

研究質問1: 時間管理について、大学生はどのように認識しているのか□

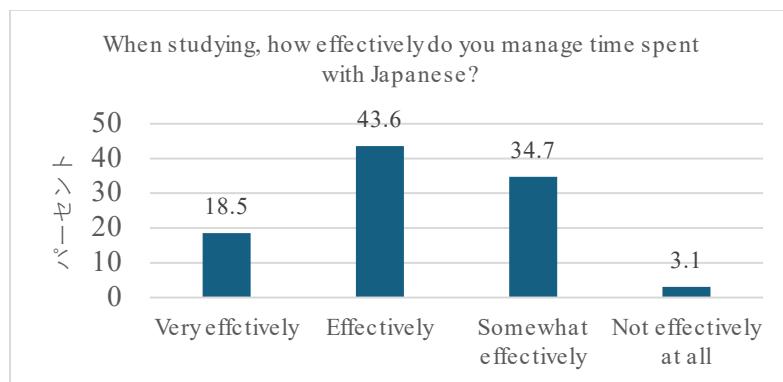
この研究質問に関して、次の三つの質問をした。

1. When studying, how effectively do you manage time spent with Japanese?
(日本語学習の効率性)
2. How well are you managing to fit Japanese study into your personal schedule?
(個人のスケジュールと日本語学習のバランス)
3. How well are you balancing your time for working and studying?
(仕事と学習のバランス)

5.2.1.1 日本語学習時間管理の効率性

最初の質問「学習の際、日本語に費やす時間をどの程度効果的に管理していますか」(When studying, how effectively do you manage time spent with Japanese?)に対する全体的な回答において、最も多かったのは「Effectively」であり、43.6%を占めた。次いで多かったのは「Somewhat effectively」で、34.7%であった。「Very effectively」は18.5%、そして「Not at all」は3.1%であった。全体として、効果的に学習の時間管理ができるている（「Very effectively」および「Effectively」）と認識している参加者が過半数を占めた。しかし、約4割の参加者が「Somewhat effectively」または「Not at all」と回答しており、あまり効果的に管理できていないという認識も示された。（表6）

表6：日本語学習時間管理の効率性



この質問に対する回答を大学形態別に分析した結果、効果的に時間管理ができるているという認識（「Very effectively」と「Effectively」）が60%台で、あまり効果的に管理ができるないという認識（「Somewhat effectively」と「Not at all」）が30%台であった。一方、私立大学においては、「Somewhat effectively」が54.5%にも達し、過半数の学生が、効果的に管理ができるいると断言できない状況が示された。（表7）

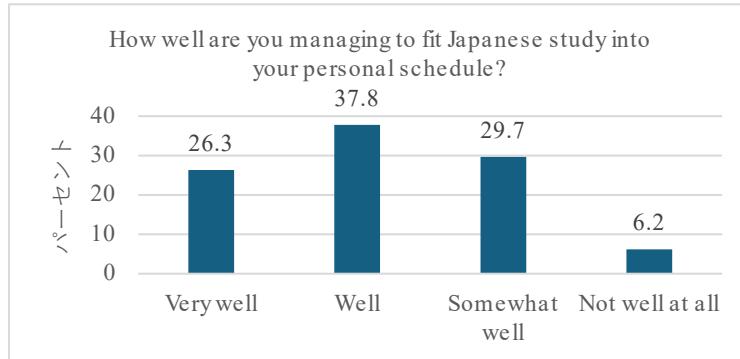
表 7：日本語学習時間管理の効率性(大学形態別) 単位：%

	Very effectively	Effectively	Somewhat effectively	Not at all
公立リサーチ大学	21.2	40.4	34.9	3.4
公立ティーチング大学	8.1	54.8	33.9	3.2
私立大学	18.2	27.3	54.5	0
コミュニティカレッジ	25	42.5	30	2.5

5.2.1.2 個人のスケジュールと日本語学習のバランス

次の質問「日本語の学習を個人のスケジュールにどれくらいうまく組み込んでいますか」(How well are you managing to fit Japanese study into your personal schedule?)に対する回答として、最も多かったのは、「Well」の37.8%であり、その次に多かったのは「Somewhat well」の29.7%であった。「Very well」は26.3%そして「Not well at all」は6.2%であった。全体的に見て、個人のスケジュールと日本語学習のバランスがうまくとれていると認識している参加者が過半数を占めていた。一方、バランスがあまり取れていない(「Somewhat well」あるいは「Not well at all」)という認識をもっている学生は35.9%だった。(表 8)

表 8: 日本語学習時間管理：個人のスケジュールと学習のバランス



この質問に対する回答を大学形態別に分析した。日本語の学習を個人のスケジュールにうまく組み込んでいるとの認識が(「Very well」あるいは「Well」)、約61%から73%の間で、あまりうまく組み込でいない(「Somewhat well」と「Not well at all」)が27%から39%の間であった。あまりうまく組み込でない割合が一番高かったのはティーチング大学の学生の39%で、ほぼ4割の学生がうまく組み込でないというのがわかった。(表 9)

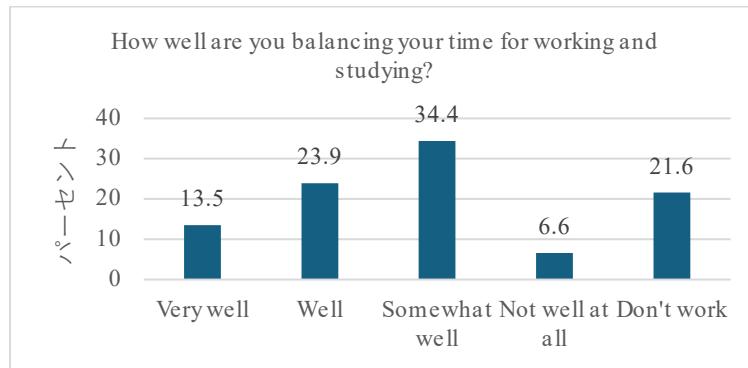
表 9: 日本語学習時間管理：個人のスケジュールと学習のバランス（大学形態別）単位：%

	Very well	Well	Somewhat well	Not well at all
公立リサーチ大学	26.7	37.7	28.8	6.8
公立ティーチング大学	21	40.3	32.3	6.5
私立大学	18.2	54.5	27.3	0
コミュニティカレッジ	35	30	30	5

5.2.1.3 仕事と学習のバランス

三つ目の質問「仕事と学習の時間のバランスを、どのくらいうまくとっていますか」(How well are you balancing your time for working and studying?)に対する回答として、最も多かったのは「Somewhat well」の34.4%であり、次に多かったのは「Well」の23.9%であった。「Very well」は13.5%、そして「Not well at all」は6.6%であった。仕事と学習のバランスがうまく取れている(「Very well」および「Well」)と認識している学習者は37.4%で、あまりとれていない(「Somewhat well」および「Not well at all」)が41%であった。(表 10)

表 10：日本語学習時間管理：仕事と学習のバランス



この質問に対する回答を大学形態別に分析した。それぞれの形態における(a)は、働いている学生と働いていない学生全体を対象とした割合であり、(b)は働いている学生のみを対象とした割合を示している。(表 11) ここでは、働いている学生のみの割合(b)を取り上げ説明する。

リサーチ大学において、仕事と学習の時間のバランスがうまく取れていると回答した学生(「Very well」および「Well」)と、バランスがあまりうまく取れていないと回答した学生(「Somewhat well」および「Not well at all」)の割合は、それぞれ50%であつ

た。ティーチング大学では、うまく取れていると回答した学生が 44%、あまりうまく取れていないと回答した学生が 56% であった。私立大学では、うまく取れている学生が 37.5%、あまりうまく取れていない学生が 62.5% であり、コミュニティカレッジでは、うまく取れている学生が 48.6%、あまりうまく取れていない学生が 51.5% であった。どの大学形態においても、仕事と学習の時間バランスがうまく取れていないと回答した学習者が過半数を占めており、学習者が時間調整に苦労している様子が顕著に示されている。

表 11：日本語学習時間管理：仕事と学習のバランス（大学形態別）単位: %

		Very well	Well	Somewhat well	Not well at all	Don't work
公立リサーチ大学	a	14.4	23.3	31.5	6.2	24.7
	b	19.1	30.9	41.8	8.2	N/A
公立ティーチング大学	a	12.9	22.6	37.1	8.1	19.4
	b	16	28	46	10	N/A
私立大学	a	9.1	18.2	45.5	0	27.3
	b	12.5	25	62.5	0	N/A
コミュニティカレッジ	a	12.5	30	37.5	7.5	12.5
	b	14.3	34.3	42.9	8.6	N/A

a: 働いている学生と働いていない学生全体を対象とした割合 b: 働いている学生のみを対象とした割合

5.2.2 日本語学習法の効率性

二つ目の研究質問は、日本語学習法の効率性に関するものであり、以下にその結果を報告する。

研究質問 2：日本語学習法の効率性について
日本語学習法の効率性について、大学生はどのように認識しているのか。

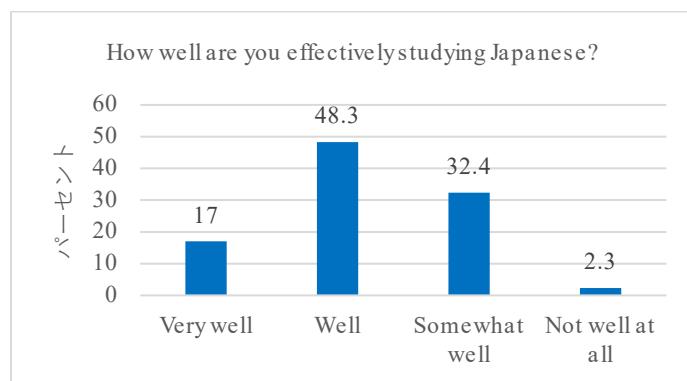
この課題を探るのに二つの質問を設定した。

1. How well are you effectively studying Japanese? (効率性)
2. How well are you able to focus on Japanese study? (集中力)

5.2.2.1 日本語学習法の効率性

一つ目の質問「日本語をどのくらい効果的に学習していますか」(How well are you effectively studying Japanese?)に対する回答として、最も多かったのは「Well」の48.3%、次いで「Somewhat well」の32.4%、さらに「Very well」の17%、最後に「Not well at all」が2.3%であった。過半数以上の学生が、効率よく学習していることがわかったが、34.7%の学生が「Somewhat well」と「Not well at all」と回答し、約3割の学生が、あまり効率よく学習できていないと認識していることがわかった。(表 12)

表 12：日本語学習法の効率性



この質問に対する回答を大学形態別に分析した結果、私立以外の三つの形態の大学で、効果的に学習している（「Very well」と「Well」）と回答したのは約63%から67%の間で、あまり効果的に学習できていない（「Somewhat well」と「Not well at all」）と答えたのは約33%から37%だった。私立大学において、あまり効果的に学習できていないという認識の学生は45.5%にも達した。全体的に、3割以上の学生が効果的に学習できていないことがわかった。(表 13)

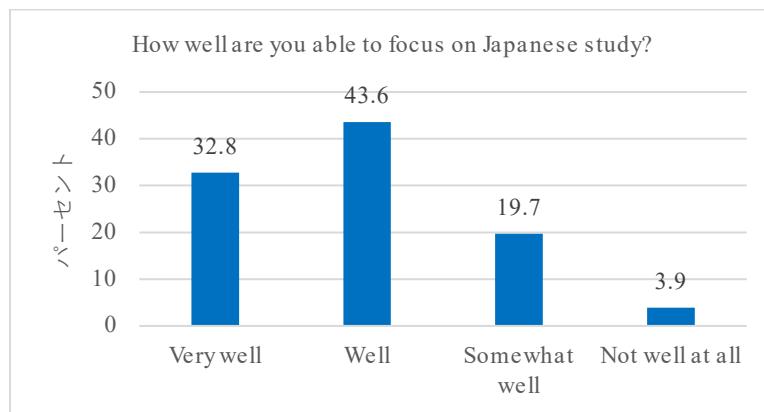
表 13：日本語学習法の効率性 (大学形態別) 単位：%

	Very well	Well	Somewhat well	Not well at all
公立リサーチ大学	17.1	50	30.1	2.7
公立ティーチング大学	11.3	51.6	35.5	1.6
私立大学	0	54.5	45.5	0
コミュニティカレッジ	30	35	32.5	2.5

5.2.2.2 日本語学習法の効率性：集中力

日本語学習法の効率性に関する二つ目の質問「日本語の学習にどのくらい集中できていますか」(How well are you able to focus on Japanese study?)に対する回答として、最も多かったのは「Well」の43.6%、次いで「Very well」の32.8%、さらに「Somewhat well」の19.7%、最後に「Not well at all」が3.9%で、よく集中できていると回答した学生が約76%いるのに対し、集中できていると断言できないのは23.6%だった。(表14)

表14：日本語学習法の効率性（集中力）



この質問に関する回答を大学形態別に分析した結果、よく集中できていると回答したのは私立大学の90.9%だったが、他の三つの大学は全て70%台だった。そして、私立大学以外では、およそ25%の学習者があまりよく集中できないということがわかつた。(表15)

表15：日本語学習法の効率性（集中力）（大学形態別）単位: %

	Very well	Well	Somewhat well	Not well at all
公立リサーチ大学	32.9	43.8	20.5	2.7
公立ティーチング大学	30.6	45.2	16.1	8.1
私立大学	9.1	81.8	9.1	0
コミュニティカレッジ	42.5	30.3	25	2.5

5.2.3 学習に対する姿勢

三つ目の研究質問は、学習に対する姿勢に関するものであり、以下にその結果を報告する。まず、記述統計の結果を報告し、その後、自由回答の内容分析の結果を報告する。

研究質問 3：学習に対する姿勢について

学習に対する姿勢について、大学生はどのように認識しているのか。

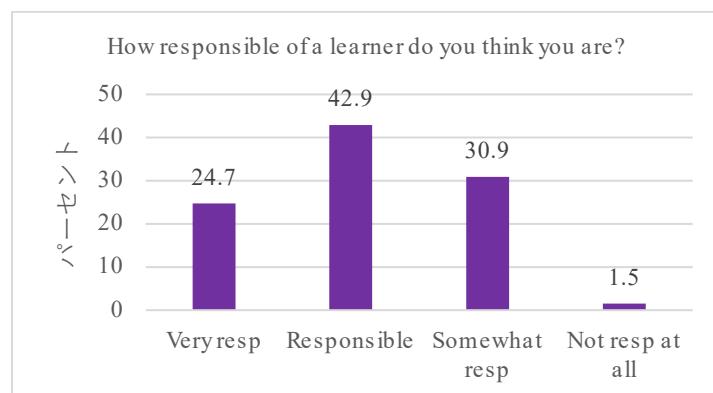
この質問を検討するために、以下の質問を設定した。

1. How responsible of a learner do you think you are?

5.2.3.1 学習に対する姿勢・記述分析

「どのくらい自分の学習に責任を持っていますか」(How responsible of a learner do you think you are?)に対する回答として、最も多かったのは「Responsible」で42.9%、次いで「Somewhat responsible」が30.9%、さらに「Very responsible」が24.7%、最後に「Not responsible at all」が1.5%であった□学習に対して責任を持っている（「Very responsible」および「Responsible」）と回答した学生の割合は67.6%であったのに対し、学習に対する責任を持っていると断言できないっている（「Somewhat responsible」および「Not responsible at all」）という認識の学生の割合は32.4%であった。(表 16)

表 16：学習に対する姿勢について



この質問に対する回答を大学形態別に分析した結果、責任を持っていると答えた学生の割合は、コミュニティカレッジの75%が一番高く、次に私立大学の72.7%、そしてリ

サーチ大学の 69.1%、最後にティーチング大学の 58.1% となった。ティーチング大学においては、約 42% の学生がそう断言できない様子がうかがえる。(表 17)

表 17：学習に対する姿勢について（大学形態別）単位: %

	Very responsible	Responsible	Somewhat responsible	Not responsible at all
公立リサーチ大学	23.2	45.9	30.8	0
公立ティーチング大学	21	37.1	38.7	3.2
私立大学	9.1	63.6	27.3	0
コミュニティカレッジ	40	35	20	5

5.2.3.2 学習に対する姿勢：コメント分析

次に「どのくらい自分の学習に責任を持っているか」の問い合わせに、任意で書かれたコメントの分析結果を報告する。上の 5.2.3.1 の項でも述べたが、記述統計の結果、学習に対する姿勢に関しての多くは「Responsible」、次いで「Somewhat responsible」、そして「Very responsible」と回答しており、ここでは、これら三つのいずれかを選択した学生のコメントを分析した。「Very responsible」および「Responsible」と回答したもの、「自分の学習に責任を持っていると答えた学生のコメント」カテゴリーに、そして「Somewhat responsible」と回答したもの、「自分には学習に対する姿勢が少しある」と答えた学生のコメント」カテゴリーに分類し、その内容を比較した。(表 18)

表 18：学習に対する姿勢のコメント

自分の学習に責任を持っていると答えた学生のコメント	
1	I do all the required tasks within time and sometimes even do extra for practice.
2	I do more than what is required.
3	I take learning languages seriously, since it's part of my goal of being a translator.
4	I check daily the calendar we get and mark off topics we already learned and see what homework is coming up the next following days.
5	I occasionally procrastinate but always hold myself accountable enough to learn responsibly.
6	I have a 4.0 GPA and at the end of this semester I will have 60 units.
7	I make sure to learn good study habits and practice outside class.
8	I was valedictorian and went to an Ivy League school. I am very responsible. I also learn a lot in 4 hours a week and remember it all.

9	I tend to put things off, but I still get them done on time.
10	I can do my own research and learn faster on my own, but only if I have the interest to do so. I'm not too interested in doing my own research regarding a language I'm not completely stoked on learning (I do want to learn Japanese like mentioned before, but there are 2 other languages I'd rather focus on).
自分には学習に対する姿勢が少しあると答えた学生のコメント	
1	I could do better.
2	I feel like I could study a bit more than I do.
3	I am repeating my math class because I didn't study last quarter.
4	I'm very burnt out, so I often procrastinate and have horrible time management skills.
5	I have missed a couple of homework's and forgot to study for some quizzes.
6	Outside of a structured environment, I am prone to 'new year solution' bursts of motivation resulting in a high rate of fall-off. I added this class specifically to have a structured environment with some level of stakes.
7	It all depends on how engaging the course is. XXX sensei makes the content of the course very easy to digest.

自分の学習に責任を持っていると回答した学生のコメントからは、要求される以上の努力を行ったり、時間管理や学習管理を適切にしたり、クラス外でも真面目に日本語の練習を行ったりするなど、自分が優れた学習習慣を身に付けているという強い認識と、るべき行動を把握していることが明らかに示されている。一方で、学習に対する姿勢が少しあると回答した学生は、努力不足や勉強量の不足、時間管理や学習管理の不十分さについての認識を持っていることがわかる。

5.2.4 統計分析の結果

一週間の日本語学習時間および就労時間に関する二つの質問と、日本語の学習習慣に関する学習者の自己認識を問う六つの質問への回答を対象に、統計分析を実施した。まず、四つの大学形態間の差異については、One-way ANOVA を用いて検証した。その結果、いずれの項目においても有意な差異は認められなかった。次に、六つの質問項目に対する回答の相関関係をピアソンの相関係数を用いて調査した結果、因果関係を説明することはできないものの、いくつかの項目間に相関関係が認められた。(表 19)

表 19 日本語の学習習慣に関する自己認識項目の相関係数

	就労時間	日本語学習の時間管理	個人のスケジュールと日本語学習のバランス	仕事と学習のバランス	学習法の効率性	日本語学習の集中力	学習に対する姿勢
学習時間 Pearson の相関係数	-.030	.092	.109	.089	.057	.120	.135*

就労時間 Pearson の相関係数		.049	-.022	-.431**	.071	-.006	.102
日本語学習の時間管理 Pearson の相関係数			.582**	.064	.586**	.549**	.379**
個人のスケジュールと 日本語学習のバランス Pearson の相関係数				.219**	.577**	.628**	.320**
仕事と学習のバランス Pearson の相関係数					.221**	.209**	.044
学習法の効率性 Pearson の相関係数						.564**	.450**
日本語学習の集中力 Pearson の相関係数							.327**

* $p<.005$, ** $p<.001$

まず、自己認識を問う最初の質問である「日本語学習の時間管理」に関しては、次の4項目との間に有意な相関関係が認められた：個人のスケジュールと日本語学習のバランス ($r=.582, p<.001$)、学習法の効率性 ($r=.586, p<.001$)、日本語学習の集中力 ($r=.549, p<.001$)、および学習に対する姿勢 ($r=.379, p<.001$)。次に、「個人のスケジュールと日本語学習のバランス」に関しては、仕事と学習のバランス ($r=.219, p<.001$)、学習法の効率性 ($r=.577, p<.001$)、日本語学習の集中力 ($r=.628, p<.001$)、および学習に対する姿勢 ($r=.320, p<.001$)との相関が見られた。さらに、「仕事と学習のバランス」に関しては、学習法の効率性 ($r=.221, p<.001$)、および日本語学習の集中力 ($r=.209, p<.001$)との相関が示された。また、「学習法の効率性」に関しては、日本語学習の集中力 ($r=.564, p<.001$)、および学習に対する姿勢 ($r=.450, p<.001$)との相関が確認された。最後に「日本語学習の集中力」は、学習に対する姿勢 ($r=.327, p<.001$)との相関が見られた。

6 考察

ここでは、調査結果を研究質問別に考察する。

6.1 日本語学習の時間管理

研究質問1において、初級学習者の時間管理に関する調査を行った結果、約6割の学生が効果的な時間管理を行っているということがわかった。一方で、約4割もの近くの学生は効果的な時間管理があまりできていないと認識していることも明らかになった。

特に、仕事と学習のバランスに関しては、過半数の学生が時間管理に難しさを感じていることが示された。初級日本語のレベルでおよそ4割の学生が時間管理に自信がないという現状は、中級レベルに進級した際に、授業についていくのがさらに困難になっていくことが予測される。このため、初級レベルの時点で、時間の管理を含む学習方法に関するサポートを授業内である必要があると考えられる。また、大学の形態別に分析した結果、約4割の学生が時間管理に自信を持っていないというこの傾向には、大きな差異が見られず、統計的な有意差も確認されなかった。したがって、どの大学形態においても同様のサポートが必要だということが言える。

時間管理に関する相関関係を分析した結果では、まず、就労時間が長いほど、仕事と学習のバランスが取れていないこと示された。さらに、日本語の学習時間が長いほど、自身の学習に対する責任感が強いことが示された。また、日本語の学習時間管理が効果的に行われていればいるほど、個人のスケジュールとのバランスが取れ、日本語学習にも集中しやすく、効率的に学習が進んでいることがわかった。また学習に対する姿勢もよい。加えて、個人のスケジュールと日本語学習のバランスが取れていればいるほど、仕事と学習のバランスも良好であり、日本語学習に集中でき、効率的に学習が進んでいることがわかった。また学習に対する姿勢もよい。

これらの結果から、アカデミック・サクセスの主要な要因の一つとして時間管理の重要性が挙げられる。たとえ就労時間が長い場合でも、時間管理が適切に行われている学生は、比較的スムーズに学習を進めることができることが予測される。初級レベルの段階から授業で時間管理に責任を持つ重要さを認識させる事が、中級レベルに進める大きな要因である。

6.2 日本語学習法の効率性

研究質問2に関連する学習法の効率性については、初級学習者の約65%が自身の学習が効率的であると認識している一方で、約35%割はあまり効率的に学習できていないと認識していることが明らかになった。大学形態別に分析した結果、私立大学では約46%の学生があまり効率的に学習できないと答えている。この結果は、重要な課題として認識されるべきであろう。集中力に関する調査では、約76%の学生が肯定的な回答を示し、一方、あまり集中できていない学生は約24%にとどまった。大学形態別に分析した結果、リサーチ大学、ティーチング大学、コミュニティカレッジの三つの大学形態において、約23%から28%の間の学生があまり集中できていないと答えているが、私立大学ではその割合が約9%のみである。集中力に関するこれらの結果から、学習者は集中力に関しては他の質問事項と比べて、比較的肯定的な認識を持っていることがわかった。

学習法の効率性に関する相関分析の結果、日本語を効率的に学習できていると認識している学生は、学習に対する責任も持っていることが明らかとなった。本調査に参加した学生にとっては、学習の効率性を高めることができ、学習に対する責任感の向上と密接に関連しているようだ。このことから、日本語学習におけるストラテジーや効果的な学習法をクラス内で共有する活動を通じて、学習の効率性を向上すれば、学習に対する責任意識の向上が期待できる。

6.3 学習に対する姿勢

研究質問3に関する学習に対する姿勢についての調査では、大学の形態にかかわらず、約7割弱の学習者が自らの学習に対して責任を持っていると認識していることが明らかになった。一方で、約3割の学生は、学習に対する責任感があるという意識が弱い、あるいはそのような認識はないと回答している。学習に責任を持っていると答えた学生のコメントを分析すると、彼らは自分が優れた学生であるという強い認識を持ち、学習において何をすべきかを的確に把握していることがわかる。これは、責任を持つ学生は短期的および長期的なゴール設定を行っていることを示唆している。6.2節で、日本語学習におけるストラテジーや効果的な学習法をクラス内で共有する活動を提案したが、それに加えて、リフレクションやゴール設定の指導を授業内に取り入れるなど、学習方法に対するより深い指導が求められる。

7 まとめ

全米日本語教育学会と国際交流基金ロサンゼルスとの共同調査 (Saito-Abbott et al., 2022; Saito-Abbott et al., 2023)、並びに AP Japanese の高校教師および大学教師を対象としたアンケート調査 (Chinen et al., 2023) からも、日本語能力の低下、多くの日本語教師がパンデミック前後で学習者の学習習慣に変化があったと認識していることがわかった。しかし、パンデミックを乗り越えた現在においては、教師は学習者のニーズを深く理解し、それに応じた指導がより一層求められている。そのためには、アカデミック・サクセスを促進し、日本語学習コミュニティの構築が必要不可欠である。その構築には学習者の時間管理、学習法の効率性、および学習に対する姿勢が大いに関与している。初級レベルにおいては、過半数の学生がこれらの要素に対して肯定的な回答を示したものの、約3割の学生がこれら三つの項目において確立できていない状況にあることは、重要な課題である。言語学習においては、段階的な積み重ねが重要であり、次のレベルへ進級し成功するためには、初級段階での適切なサポートと対処が不可欠である。学習者のポジティブな学習経験を促進するためには、単に日本語の指導にとどまらず、学習習慣に関する指導も重要である。

8 研究の限界点と将来の研究課題

本調査のサンプル数は259名であったが、大学の形態別に見たサンプルの分布には偏りが見られた。次回の調査では、サンプル数を増やすとともに、大学の形態間でバランスの取れたサンプル分布が得られることが望ましい。また、本調査では学習者の認識に焦点を当てたが、今後の調査では、実際の成績やパフォーマンスに関する項目を含める必要があると考える。

参考文献

- Chinen, K., Saito-Abbott, Y., & Satsutani, S. (2023) Core Practices: How HS-AP and college teachers perceive the pandemic effect. ACTFL Annual Convention, Chicago.
- Hews, R, McNamara, J, & Nay, Z. (2020). Prioritising lifeload over learning load: Understanding post-pandemic student engagement. *Journal of University Teaching & Learning Practice*, 19(2), 128-146.
<https://doi.org/10.53761/1.19.2.9> (accessed August 12, 2024)
- Munir, H. (2022) Reshaping Sustainable University Education in Post-Pandemic World: Lessons Learned from an Empirical Study *Educ. Sci.* 2022, 12(8), 524; <https://doi.org/10.3390/educsci12080524> (accessed August 12, 2024)
- Saito-Abbott, Y., Jodan, A., & Takehara, R. (2023). Impact of COVID on Japanese language education: Lessons learned and where we go from there. CLTA Convention, Visalia, CA.
- Saito-Abbott, Y., Mori, J., Jodan, A., & Takehara, R. (2022). Impact of COVID on Japanese language education and future directions. ACTFL Convention, Boston.
- Saito-Abbott, Y., Mori, J., & Takehara, R. (2022). 新型コロナウイルス(Covid-19) パンデミックによるアメリカ日本語教育現場の変化 2022年春季 AATJ/JFLA 調査集計結果速報 AATJ 春季オンラインカンファレンス
- Stewart, L. B., Miertschin, S., & Goodson, C. (2020). Covid-19 Transitions to online formats and pre-pandemic foundations for student success: Time management and lifestyle variables. *Journal of Higher Education Theory and Practice*. Vol 20(10), 173-189. http://www.na-businesspress.com/JHETP/JHETP20-10/14_StewartFinal.pdf (accessed August 12, 2024)